

## 録音機器・技術普及委員会

録音機器・技術普及委員会担当 理事

ティアック株式会社 音響機器事業部

大島 洋

JAS 創立 60 周年に心よりお祝い申し上げます。

この度「録音機器・技術普及委員会」の担当理事を拝命致しましたティアック株式会社の大島でございます。

さて、生録委員会が今年から「録音機器・技術普及委員会」に名称が変わりましたが、今まで生録委員会が行ってきた活動を更に充実すべく、よりアグレッシブに録音機器や録音技術の啓蒙活動を行って参る所存です。

平成 21 年度からスタートした生録委員会は、3 年間に 5 回の音楽録音会を開催し、800 名以上のリスナーと録音者に啓発活動を行ってきました。

コンサート等における健全な録音市場の構築や、録音技術を磨くセミナーの実施、録音ビギナーへの機器貸出し、オーディオ&ホームシアター展での録音機器メーカーブース展示など、数々の普及活動に努めてきた結果、今では IC レコーダー分類として 126 万台もの出荷実績となっております。また、このうちの高音質タイプ (fs 96KHz 以上の PCM レコーダー) は 25 万台にもなり、大きな市場に育ってきております。

このような PCM レコーダー市場の拡大をさらに後押しするためにも、メーカー単独では成し得ない日本オーディオ協会ならではの手法により市場拡大を推進すべく、録音機器・技術普及委員会のあるべき姿を再考し、具体的な活動に結び付けていきたいと考えております。

下記に本委員会活動についての方針や指針、また委員会運営の抱負等を述べさせていただきますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

### 1. ライブレコーディング体験会の実施 (2012 年 10 月 21 日開催予定)

今年のオーディオ&ホームシアター展では、「ライブレコーディング体験会」と銘打って録音会を開催します。今回のターゲットはいわゆるマニア層ではなく「録音初心者」に重点を置いた構成にしました。例えば「お父さん。お母さん」が我が子の演奏を録音するというシチュエーションを考えると「録音」はまだハードルが高い感は否めません。そこで今回、敢えて録音マニアではない一般ユーザーにターゲットを絞り、パーソナルビデオでは録ることが難しい高音質録音を体験していただくことで、パーソナル録音の素晴らしさを知って頂こうと企画したものです。そのような背景から今回の演奏も、中学・高校の部活動での人気上昇し、最近ファンが急増中のプラスバンド演奏でお楽しみ頂くことにしました。持ち込みの録音機材については、基本的には PCM レコーダー本体のみとし、外部マイクの使用を制限するというように録音初心者向けに特化したレコーディングの「体験会」としました。

今まで行ってきた録音会は、どうしても録音マニア層向けの傾向が強かったこともあり、趣向が変わった今回の初心者向けレコーディング体験会の評価は如何様になるのか若干不安ではありますが、裾野を拡げるという意味では必ずや将来に向けて良い方向に向かうものと信じております。

## 2. 録音会（録音マニア向け）の開催

今年のオーディオ&ホームシアター展で開催される「ライブレコーディング体験会」は、上述のとおり録音初心者向けの内容であるため、今まで過去に参加されてきた所謂「録音マニア層」から見ると、この体験会は物足りないとお感じになるのではないのでしょうか。

そこで、このようなユーザーに対する録音の場の提供をオーディオ&ホームシアター展ではなく、他の機会に設けることを企画したいと考えております。これらのユーザーは録音に対するこだわりが強いため、場所や日時、奏者、録音環境等を鑑みてより良い録音会が開催出来るよう準備を進めたといと考えております。しかしながら、少人数で行う有料イベントとなる可能性が高いため、事業としてのゼロバランス化も考えると、開催が難しい状況ではありますが、知恵を絞っていかなる可能性も視野に入れて準備したいと思えます。

## 3. 技術セミナーの実施

例えば、次世代録音フォーマットが台頭してくる可能性は否めません。思い起こせばアナログテープからデジタルテープ、CD、MDへと変遷してきた録音メディアは、今後ハイレゾ音源（192KHz、384KHzやDSD等）と呼ばれる高音質コンテンツに対応する新しいストレージ（HDD、SD、CF等）に形を変化させて、今後ますます一般市場に拡がっていくものと思われます。このように、録音機（フォーマット）の進化は日進月歩で進化しています。一方録音技術については、録音機器の進化とは比例しておらず、録音技術向上のノウハウを取得する場が殆ど無い状況に見えます。そこで、録音技術向上のためのセミナーを上記で案内した録音会の中に併設することにより、録音技術向上に寄与出来るものと考えます。

## 4. 音楽専門誌や楽器専門誌との提携

PCMレコーダーはまだまだ一般的には知られていない存在です。録音の楽しさや素晴らしさを一人でも多く伝えるために今回ライブレコーディング体験会を開催する訳ですが、この参加者は音楽専門誌や楽器専門誌の読者と同じ層なのではないかと考えております。新たなユーザー発掘のためにも、今後は音楽専門誌や楽器専門誌と提携し、「音を録る」ことの啓蒙活動を行って参ります。

これらの活動を行うことによって健全な録音市場の構築に寄与出来るものと考えております。皆様のご協力を何卒よろしくお願い致します。